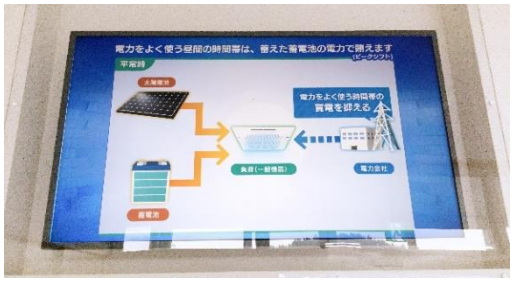
【事例　社会福祉業】就労継続支援事業所のZEB化

社会福祉法人 中越福祉会 みのわの里 【工房ゆきわり】

園長　長谷川さん

■所在地：長岡市和島地域
■事業概要
就労継続支援事業（B型）
・生活介護事業の多機能事務所
■従業員・利用者数
従業員：9名　利用者：18名
（2025年3月現在）

取組内容



・令和5年度に事業所をNearly ZEB※化。建物の高断熱化や高効率空調の導入による「省エネ」、太陽光パネルと蓄電池による「再エネ」の導入で建物全体のエネルギー消費量を78%削減。中越地域の福祉施設として初のZEB。
・BEMS※を導入し、電気使用量や発電量などのエネルギー収支を見える化。

※ZEB：省エネと再エネの導入によってエネルギー消費量を100％以上削減するビルのこと。Nearly ZEBは75%以上削減するビルのこと。
※BEMS：ビル内のエネルギーを管理しながら室内環境を最適化する制御システムのこと。

写真上：事業所全景／写真下：エネルギー収支を見える化しているモニター

メリット

・冬は暖かく、夏は涼しく、建替前の事業所よりも従業員や利用者がとても快適に働くことができるようになった。これにより、従業員や利用者のストレスが低減され、より良いサービスに繋がっていることを実感している。
・エネルギー収支の見える化で、従業員の省エネや再エネに対する意識が変化。
・法人のSDGsや環境に配慮したい気持ちを実現。地域貢献や外部への宣伝にも繋がっている。

今後の展開について

・ZEBが世間に浸透していない。ZEBにしてから良いこと尽くしなので、多くの事業者に知ってほしい。工房ゆきわりはいつでも見学可能。ぜひ参考にしてほしい。
・太陽光パネルと蓄電池によって、災害時などでも電気の使用が可能。福祉事業のみならず非常時の地域のライフラインとしても、地域に貢献していきたい。